

第6回 河南町協働のまちづくりを考える懇話会 議事録（要旨）

日時：平成25年2月16日（土）

16:00～17:50

場所：やまなみホール2階研修室

◆参加者

懇話会）浅岡保裕委員、尾野伸一委員、寛俊彦委員、近藤雅美委員、佐々木希絵委員、杉本孝委員、大門晶子委員、廣野清枝委員、若生謙二座長

（50音順）

町） 新田総合政策部長、上野秘書企画課長、和田係長、大喜多主事

◆内容（抜粋）

～今回のテーマ『河南町に必要なコミュニティ活動について』～

○コミュニティ活動について意見交換に入る前に、各委員から具体的な意見を引き出せるよう、事務局がコミュニティ活動に関する過去の懇話会の発言内容、コミュニティ活動の概要について説明を行った。

論点：①「コミュニティ活動の尊重について」

○事務局から、コミュニティ活動の尊重を住民、議会、行政に求める先行事例では、義務的な表現（例、〇〇しなければならない）で強く求めるケースから努力目標的な表現（例、〇〇するように努める）で緩やかに求めるケースまで多岐にわたることを説明。河南町で尊重の方向性を示すのであれば、どの様なトーンが良いか意見交換が行われた。

佐々木委員）サラリーマン世帯にとって義務的な表現では無理な負担になるという点で「尊重する」という程度の表現が良いと思うが、たとえ忙しくてもやる気があれば何らかの貢献はできるということからすると、「義務」としても良い。

寛委員） 尊重を緩やかに求める表現で良いのでは。河南町住民のみを対象とするならば、義務的な表現でも良いが、町外の人に関わる可能性があるのであれば、緩やかな表現で良い。

佐々木委員） 町外の人視点だからこそ見えることもあるので、町外の人に関わるのは良いことだと思う。

寛委員） 第三者の視点を取り入れようとした大和市では、住民の定義を拡大解釈したことで、議員の立場がないがしろになりかねない危険性が生じた。そうならないように住民の定義を行うべき。

若生座長) 私も町外から河南町に来ているが、河南町を良くしたいという思いは持っている。そういった町外の人参加できるようになれば良い。大和市ではどううまくいっていないのか。

寛委員) 住民の定義を拡大解釈したまちづくり条例が最高規範となったために、地元住民の総意があるのに、直接関わらない外部の人間の反対でまちづくりが立ち行かなくなるのは避けたい。

若生座長) おっしゃる通り、本来の住民でない団体等の考えがまちづくりの中で支配的になる事例はあるかもしれないが、私自身は河南町で活動しているのであれば、住民ではない、町外の人間の意見も尊重してもらいたいと思う。

杉本委員) 住民と自治体内で活動する人間が対象になるということか。

若生座長) 自民党による警鐘は、直接関わらない外部の人間のなかでも、とくに何らかのカルト的な集まりがまちづくりに割り込むことを危惧するものだろう。しかし、河南町は相当事情が異なっており、条例を作るという共通認識はいただいている。要は実際のまちづくりに関わる人間の意見を尊重するなどして、うまくいくようなあり方を考えれば良いのではないか。

杉本委員) 条例例(別紙資料)に挙げられている吹田市、大阪狭山市はニュータウンが多いのに対して、阪南市は旧村が半分程度含まれている。本町には新住宅地と古くからの集落があり、すでにまちづくりにおいて協力いただいている方もいるものの、努力目標として、広く呼びかけたい。

大門委員) 河南町の場合、大阪芸術大学の力をまちづくりに生かすという観点に立てば、災害などへの対応を考えても、芸大を前提に在勤・在学の人を入れておくべきだと思う。そして、コミュニティの尊重については住民の皆さんの生活にも影響してくることがあるので、今の河南町の現状では努力目標とし、将来、より強く改めなければ、まちづくりが進まないということになれば、強くしていくという方向で良いのではないか。

浅岡委員) 参画できる対象の範囲を河南町に籍のある人に限定し、それ以外を閉ざすようでは、発展的にはならない。コミュニティ活動の尊重については中間的な強さが良い。

佐々木委員) 自治会の役員を引き受けないという人が増えており、自治会の存続が危ぶまれるので、強めのトーンでも良い。

杉本委員) 義務にすると、人間関係が難しくなるかもしれない。

若生座長) 私の思いは、住民票のある方を中心にして、在勤・在学者の意思で良くなるのであれば、それを反映できるようにした方が良いと思う。河南町では大和市のような心配はないと思うし、そうならないようにすれば良い。

廣野委員) コミュニティ活動には町外から働きにくる方や芸大生等にも加わってもらいたい。住民の中から参加する人が少ない現状から、中間的な強さの表現

が良い。

若生座長) コミュニティ活動には住民票のある方だけでなく芸大生なども関わってくる。

近藤委員) 現状、芸大生との付き合いはイベント時のみに限定されている。住民は高齢化しており参画が困難になっているので、「尊重に努める」といった緩やかな表現としないと、負担に感じてしまう。また個人的なボランティア活動が無保険で、事故の危険性もあるので、努力事項的な緩やかな表現が良い。

論点：②「コミュニティ活動の今後のあり方について」

○事務局から、協働のまちづくりにコミュニティが積極的に関わるうえで、コミュニティ活動には、従来の草の根活動に加えて、地域の課題解決の役割も求められている旨を説明。河南町の現状を踏まえて、コミュニティ活動を活性化させるための方向性等について意見交換が行われた。

大門委員) 近藤委員の話で思ったが、コミュニティ活動の実際の担い手の都合や健康面など様々な実情がある。担い手の負担が少なくなるような表現を盛り込み、住民が高齢化した現状に配慮して進めていくことも、コミュニティ活動を活性化させるうえで大事だ。

尾野委員) コミュニティの弱体化は危険だ。高齢化、少子化を踏まえてコミュニティ活動を推進するのであれば、防災・防犯などの地域課題の解決と生活の向上という2つの方向があるだろう。

筧委員) 活性化には、住民が地域の課題を共有することが大事で、防犯など地域の課題を解決するという方向を共有するためには、住民が自主的にコミュニティ活動にどれだけ参加するかが問われる。

若生座長) 知らなかったから参加しないのはいけない。課題の認識の共有に努めるということが大切だ。

浅岡委員) 活動をおこなっていても、どこまで伝わっているのか。発信していくことが必要だ。我々の年代において、町外の方が河南町でのボランティアに参加することで、まちづくりを学び、河南町内に自分の居場所を見つけることができたという声が聞け、良いことだと感じた。河南町に住民票をおく住民以外の方が河南町内に居場所を見つけることは、コミュニティの活性化のために重要だ。

佐々木委員) 町外部の人も含めて、課題を共有することは大事だ。

若生座長) 私も含めた、町外から働きに来ている人達も課題が生じたときに解決に向けて行動することは大事。住民だけでなく働いている人や学んでいる人も含めて課題を共有していこうという視点は、各委員とも一致している。

- 大門委員) 課題の共有には、和泉市の条例のように「情報交換に努める」という視点は大事。他にも和泉市では、地域課題の解決のために、コミュニティどうしの連携が求められている。
- 若生座長) 河南町内で住民と在勤・在学者間の情報の共有はコミュニティ活動への積極的な参加につながる。
- 浅岡委員) コミュニティ活動を行ったということを周りに知ってもらいたいし、知りたいという人もいる。そこで、例えばフェイスブックやタブレット端末を用いることで、外への情報発信と地域内での情報共有もできるのではないかな。
- 若生座長) 情報交換・情報発信というのがコミュニティ活性化の1つの方策となる。そのためにタブレット端末などの媒体を使うというのも1つの視点である。

論点：③「地域活力の維持について」

- 事務局から、人口減少や少子高齢化により、地域活力が低下しつつあるなかで、将来的に高齢者や地域社会全体を支える若年層を確保するために、府内先行自治体では、子供の育成という視点や危機管理という視点でコミュニティ活動を促進しようとしている旨を説明。河南町においても、子どもの育成という視点や危機管理という視点、それ以外の視点が必要か、意見交換が行われた。
- 廣野委員) 子どもの登校の見守りは、多くの地域で実施されているが、下校時や遊びからの帰宅の見守りは、不足している。また最近、河内地区で帰宅途中の小学生が不審者に声を掛けられたケースがあったので、スクールガードリーダーや学校の先生だけでなく、地域内の保護者間の連携を呼びかける上でも、子どもの育成という視点、地域における連携という視点は必要だ。
- 若生座長) 活力を生み出し、高齢者を支える意味でも、子どもの育成という視点は必要だ。
- 寛委員) 地域活力の低下については、20年～10年前の一時期、石川地域で人口流出の傾向があった。大きな原因は「買い物に不便」ということだった。そこで、地区内に市街化区域を設けるように取り組んだおかげで、スーパーやコンビニ等が建てられ、住民をつなぎ止めることができ、二世帯の同居も増えた。
- 近藤委員) 住みにくい一番の理由は交通で、都心が遠いために、若い世代が出ていく。これを呼び戻すには、近くに働けるところや夜間も開業している医療機関があることは大きい。芸大生の場合は、地元にはバイト先がないので、周辺自治体に住もうとしている。家を建てるのも大変なことなので、町営の集合住宅を用意する等、若い世代を呼び込める街づくりも必要になる。
- 若生座長) サンプラザができれば、働くところもできて、活気づくかもしれない。

尾野委員) 河内長野市の新婚世帯の家賃補助制度のような優遇政策も必要では。

大門委員) 子供が安全に暮らせるようにするには、登下校の見守り等は必要と思う。

子どもは地域の宝ゆえに、条例に盛り込むのは良いが、他の視点として河南町ならば、協働・交流の場となっている道の駅かなんや、中村地区の農業施設の活用は、町内の第一次産業を支えることになるので、着目しても良い。

若生座長) 地域の活力の維持はインフラ（ハード）、と人づくり（ソフト）の二面がある。住民が何に向かっていくのかという方向性を条例に入れられたら面白い。子どもと高齢者は関連付けた方が良い。

佐々木委員) 子どもに限定せず、地域のみんが健やかに過ごせるという視点が良い。

大門委員) 和泉市では子どもだけでなく、福祉・防災など、視点が広がっている。

若生座長) 町の課題に応じて、条文に盛り込む視点を追加してみてもは。

論点：④「コミュニティどうしの連携について」

○事務局から、単体では活動規模が小さいコミュニティが共通の分野・目的のもとに連携することで、より大きな活動が可能となる旨を説明。

佐々木委員) コミュニティが情報を共有し、地域課題を解決するためには、前提として連携が必要になる。

寛委員) 情報交換、共有をしなければコミュニティの孤立化にもつながりかねない。コミュニティどうしの連携は必要だ。

若生座長) 河南町独自の連携の手段として、フェイスブック等を積極的に活用するという視点を盛り込んでも良い。

◆次回日程

○3月19日（火）、午後5時から。場所は役場4階大会議室北。